

「あなたは自分自身のことを、弱い人間だと思っただけでしょうか？」

「それとも、強い人間だと思っただけですか？」

「ぼくは、人間は基本的に、弱いものだと思っています。」

「少なくとも、誰もが弱い部分を持っている。それなのに人間は、自分の弱さから目を逸らしてしまう生き物でもあるのです。」

「会社を辞めるまでのぼくも、漫画家になりたいという夢を自ら封印した——という弱さから目を逸らしていたのかもしれない。」

「漫画家は、なりたいたいと思ってなれる職業ではないのは事実ですが、「やってみなければわからない」というもう一つの事実から目を逸らしていたのです。」

「多くの場合、入社3年目にしてそのことに気づき、新しい一步を踏み出すことができました。」

「自分自身を直視し、弱さを認めなければ、いつまで経っても自分に勝つことはできません。」

「たとえば、会社の後輩が自分を飛び

捨てる練習

文 弘兼憲史

text by Kenshi Hirokane

越えて、上役になったとします。出世レースという観点からすれば負けてしまったわけですから、ショックを受けて、悔しい思いをしましょう。

そんなとき、素直に負けを認められる人は、敗因を探りつつ、次のステップに向かうことができます。

自分の負けを認められない人は、あいつは運がいい、上司に最良（い）されている、取り入るのがうまいだけ、などと実力以外の要因をでっち上げて、「負けた」という事実から目を逸らそうとします。

でも、いくらそんなことをしても、自分で自分を誤魔化すことはできません。負けを認めないほうが、かえって負けを引きずるのです。

挽回はまだまだ可能なのだから、潔く負けを認めて次に行ったほうが良い。

あくまでもこれは悪い例ですが、まずは自分自身を直視して、

今の自分に足りないものは何だろうか？

自分の弱さはどこにあるんだろう？

と、きっちり考えてみてください。

そうすれば、自分の弱さが浮かんで

くるはずですよ。
最初の一步を踏み出すためにも、まずは自分の弱さを知り、弱さを認めてください。

Profile

1947年、山口県生まれ。早稲田大学法学部卒業。松下電器産業（現パナソニック）に勤務後、74年に『風薫る』で漫画家デビュー。『島耕作』シリーズや『ハロー張りネズミ』『加治隆介の議』など数々の話題作を世に出す。『人間交差点』で小学館漫画賞（84年）、『課長島耕作』で講談社漫画賞（91年）、講談社漫画賞特別賞（2019年）、『黄昏流星群』で文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞（00年）、日本漫画家協会賞大賞（03年）を受賞。07年には紫綬褒章を受章。人生や生き方に関するエッセイも多く手がけ、『弘兼流 60歳からの手ぶら人生』（海竜社）、『弘兼流やめる！生き方』（青春新書インテリジェンス）などの著書がある。



捨てる練習
プレジデント社
708円(税込)